

2022年度後期

新規

科目No.	関連講座GR127	科目名	職場環境の 化学物質リスク管理論1				副題	化学物質のばく露から作業を守るための適切なアセスメントと管理の方法を基礎から解説する			
連携機関名	化学生物総合管理学会	水準	中級	教室定員	0	配信定員	30	講義日時	土曜日13:30-17:30 (2講義集中)	拠点 (開講機関)	リモート・品川西 (知の市場)
科目概要(300字)	労働安全衛生法の化学物質対策は法令の仕組みを大きく変え、事業者による危険有害性情報の伝達・提供とリスクアセスメントが重視されようとしており、各事業場は労働災害発生のリスクをアセスメントして適切な対応をとることが一層重要である。また、今までの職場環境における化学物質管理は吸入ばく露に重点が置かれていたが、昨今の事故を踏まえて経皮ばく露対策が重視されるようになった。そこで、前半において化学物質ばく露から作業を守るための適切なアセスメントと管理の方法の基礎を提示した上で、後半で国際動向を踏まえた経皮ばく露のためのリスクアセスメントと管理の方法の現状を例示し現時点で実施できる経皮ばく露対策と解決すべき課題について論じる。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属
はじめに	1	職場における化学物質管理の概要	労働安全衛生法における化学物質対策では、今後各事業場によるリスクアセスメントとそれに基づく管理措置等の自主管理が一層求められる。労働安全衛生法が目指す各事業場による自律的な化学物質管理の重要性とそこに貫く原理・原則などについて概説する。	2022/10/8	Zoomを活用してリモート開催	石井聡子	石井聡子	東京工業大学非常勤講師 放送大学非常勤講師 元化学物質評価研究機構 評価事業部 部長
第1部 基礎	2	化学物質リスクアセスメントの考え方の基本	事業場で取り扱う化学物質から作業を守るためには、作業環境からの有害影響をその要因から理解し、アセスメントと対策を実施することが重要である。作業環境において実施されている様々なアセスメントの方法について説明する。					
	3	化学物質リスクアセスメントに必要な危険有害性情報	各事業場が職場環境における化学物質リスクアセスメントを実施するには、化学物質の危険性・有害性に関する情報の把握が欠かせない。化学物質の有害性情報の収集や国連GHS勧告によるハザード分類等、化学物質リスクアセスメントのための危険性・有害性に関する基本事項を解説する。	2022/10/22				
	4	これまでの職場における化学物質管理の概要	従来の吸入ばく露に重点を置いた日本の職場環境における化学物質対策として、作業環境測定およびばく露測定の仕組みや排気システム、作業管理として行われている作業時間の管理方法や作業方法の改善について解説する。					
第2部 応用	5	経皮ばく露に関するリスクアセスメントの現状と課題	オルトトルイジンなどの芳香族アミンを使用していた作業者が膀胱がん罹患した労働災害で、皮膚からの吸収・ばく露によって重大な健康障害が引き起こされる可能性が明らかとなった。この労働災害を踏まえて、吸入ばく露に比べて一般化されていない経皮ばく露に関するリスクアセスメントの現状について概説する。	2022/11/5				
	6	経皮ばく露の定量的な取り扱いの基本	化学物質による経皮ばく露を防止するためには、化学物質による経皮ばく露の現象を理解し定量的に取り扱い対策を講じることが重要である。化学物質による経皮ばく露の定量的な取り扱いに関する基本事項を解説する。					
		7	化学防護手袋の適切な使用のための基本	化学物質による経皮ばく露を防止するためには、化学物質による経皮ばく露を正しく理解した上で、取り扱う化学物質に対応した適切な化学防護手袋を選定することが重要である。様々な材質の化学防護手袋から取扱う化学物質に対応した適切な化学防護手袋を選定するための基本事項を解説する。				
まとめ	8	今後に向けた討論	経皮ばく露を介した健康障害の予防のために解決すべき課題について論議する。					